江戸川区立松江第六中学校

学校だより

令和８年１１月２日　第７号
江戸川区立松江第六中学校
校　長　　小野満　賢

素晴らしいことはいつも内側から始まる

校長　小野満　賢



10 月 24 日（土）、50 周年を迎える年の記念すべき文化祭が開催されました。

「天歌夢奏～50 周年の感謝を込めて」。このセンスあふれるスローガンの通り、舞台発表で行われた白熱のクラス合唱も、大迫力の吹奏楽の演奏も、他に並ぶものが無い素晴らしいものでした。もちろん、３年生代表による熱い弁論や、各クラスの色が際立つ生徒会ムービー、多目的室やＢ棟に飾られた力作ぞろいの展示作品全てをひっくるめて、まさに無双の、「松六らしさ」が溢れていました。また、この学校を創立以来見守り、繋いでくださった地域の方や、深い愛情で育ててくださった保護者を前に、全力で文化祭に取り組み、心の底から楽しむ姿を、生徒たちは存分に見せてくれたと思います。

実行委員長の　　君を中心に、３年生の副委員長、　君、　　君が脇を固め、準備の段階から下級生を引っ張ってきました。当日の実行委員の動きは皆さんご存じの通りです。開閉会式での実行委員代表の挨拶は、視線を一度も落とすことなく、堂々と会場の皆さんに語り掛けていましたし、幕間（まくあい）の舞台設置や転換でステージに真っ先に駆け上がるのは間違いなくこの３人でした。３年女子の実行委員も、司会や照明、めくりプロの管理、マイクスタンドの設置など、さまざまな役割をきびきびと献身的にこなす姿が印象的でした。その３年生に引っ張られて２年生・１年生の実行委員も自分が任された仕事をしっかりとやっていきました。状況を見て手薄なところにはサポートに入りながら、最後の最後まで、素晴らしい仕事ぶりに感心しました。与えられた仕事をしっかりとこなすことに加え、どうしたらより良いものになるのか、考えながら動いてくれていたと私は感じました。



ある日の練習風景



合唱コンクールに向けての取組は、昨年ももちろん素晴らしかったのですが、今年はさらに輪をかけて素晴らしかったように思います。「文化祭は松江六中の二大行事のうちの１つで、中でも合唱コンクールを特に大事にしていて、クラスで一致団結して創り上げていくことが大切なんだ」ということを、先輩が言葉でも態度でも、事あるごとに後輩に示していたのでしょう。その思いや姿が引き継がれたからでしょうか、これほど真剣に合唱と向き合った１年生を私は見たことがありません。

熱量は学年が上がるにつれて大きくなっていきました。３年生が最優秀賞を目指して互いに刺激し合いながら、高め合っていく姿は見応えがありました。練習の様子を見に行く度に、パートリーダーを中心に、良かったところや、もっと良くするための声を掛け合い、それを聞いている全員が真剣に受け止め、頷いたり返事をしたりして再び歌う態勢に入ります。

「校長先生、うちのクラスが絶対優勝します」という声をどのクラスの生徒からも聞きました。

「ワンランク上を目指そう」というのは、今や松江六中の合言葉になっています。その言葉通り、生徒たちは現状に満足することなく、昨年のものを超える努力をしてくれています。教職員や保護者・地域の方がそれを応援し期待しているからこそ、生徒にとっては「その期待に応えたい、超えてみせたい」という強いプラスのエネルギーとなります。そうして全力で取り組むことで、結果的に高いレベルの、素晴らしい仕上がりになっていくのだと思います。

この好循環になっている理由は、間違いなく、松江六中がいい学校だからです。そして皆さんがそういう前向きな気持ちになれるのは、松江六中に「素晴らしい先輩」と「良い仲間」と「良いライバル」がいるからです。そして何よりも大事なのは、「やらされている」のではなく、自分たちの意志で取り組んでいるからに違いありません。

この生徒たちの姿を見て、私はある言葉を思い出しました。

If an egg is broken by an outside force, life ends. If broken by an inside force, life begins. Great things always begin from the inside.

「卵が外からの力で割れれば、命は終わる。内側からの力で割れれば、命が始まる。
素晴らしいことはいつも内側から始まる。」

誰かから言われてやらされたことは、つまらないし、なかなか身に付きません。でも、自分自身が「やろう」と思ったことは楽しいし、飽きないし、当然上達も早いでしょう。自分から「やろう」と思うこと、それが素晴らしい結果につながる一歩であることは間違いありません。

学校は、これからも、生徒たちが自ら「やりたい」と心から思えるように、彼らの内なる意欲に粘り強く寄り添い、その主体性を育んでいきたいと考えています。



自分たちで大切に創り上げてきた合唱を堂々と歌っている壇上の３年生を見ているうちに、胸の奥から熱いものがこみ上げてきました。生徒たちのさまざまなシーンが思い出されます。この二年半で驚くほど成長し、今や松江六中の最上級生として、後輩たちに圧倒的な姿を見せてくれています。

私は審査員として、厳正なる審査をしなければなりません。感傷に浸っている場合ではないと分かっていても、溢れる涙を止めることはできませんでした。仕方がないので、途中からは溢れてくるものを、溢れたまま、審査を続けました。それほどまでに、彼らの歌声は深く胸に迫るものだったのです。

松江六中の文化祭は、今年も「最高」でした。

令和８年度文化祭・合唱コンクール結果（敬称略）

学年	最優秀賞	最優秀指揮者賞	最優秀伴奏者賞
１年	３組		
２年	１組		
３年	１組		

※文化祭の写真及び、アンケート結果については、次号（第８号　12/1 発行予定）に掲載します。

六中まつり　１０／３（土）



東京では８月 27 日から、六中まつり前日の 10 月 2 日まで、37 日間連続の降水がありました。これは 1886 年の統計開始以来、約 140 年で過去最長の連続降水記録を更新したそうです。秋雨前線が停滞した上に、台風が次から次と発生し、千葉県や神奈川県を中心に激しい水害や土砂災害が発生しました。朝晩の通勤通学の時間は必ずと言っていいほど雨が降り、傘が手放せませんでした。さすがにここまで雨が続くとうんざりするほどでした。

そんな中、この日は本当に久しぶりの、そして待ちに待った「晴れ」となり、予定通り、校庭での開催となりました。

開始時刻が近づくにつれて大勢の小学生が正門に集まってきます。13 時のスタートと同時に、模擬店やアトラクションには長蛇の列ができていました。今年もＰＴＡの委員会さんと、ＰＴＡのＯＢ会の「錨の会」が工夫を凝らしながら、ポップコーン・ワッフル・唐揚げ＆コロッケ、メロンパンの販売と、ペットボトル射的・くじ・輪投げ、ヨーヨー釣りを行いました。生徒たちも、生徒会役員がドリンクの販売とスタンプラリー、アトラクションとして、女子ソフトテニス部とハンドボール部がストラックアウト、科学部がスライムづくりを行いました。中学生が小さい子どもたちの目線までしゃがんで、優しく面倒を見ている姿が印象的でした。まつりの後半には 40 名を超える編成の吹奏楽部が校庭の中央に集まり、演奏会を行いました。周りを幾重にも取り囲む大勢の観客から大きな拍手をいただきました。

「六中まつり」は大勢の小学生が楽しみにしているＰＴＡ行事ですが、そこで生き生きと動く中学生は小学生にとって憧れの的です。「あんな中学生になりたい」「こんな先輩のいる松六に入りたい」などなど、一人でも多くの小学生がそう感じてくれたら嬉しいです。

前日準備では当日参加できない陸上部の面々が、当日はハンドボール部が全てのテントを張ってくれました。

開催に当たりご協力いただいた全ての保護者・地域の皆様にも感謝申し上げます。















命と心について考える週間　１０／５（月）～９（金）

命の大切さや他者を思いやる心について考えるきっかけとして、「命と心について考える週間」を上記の日程で行いました。



ＳＯＳの出し方教室

１年生を対象に、「ＳＯＳの出し方教室」を実施しました。講師の小西麻依（こにし　まい）様から、ストレスの仕組みや、それによって生じる心と身体の反応について学びました。自分の心と身体に表れるＳＯＳのサインに気付き、自分だけでは解決が難しいときには、身近な友人や相談機関などに助けを求めることの大切さを考える機会となりました。

セーフティ教室

「セーフティ教室」では、関　今朝枝（せき　けさえ）様から、現代社会におけるインターネット上のさまざまな問題について、具体的な事例を交えながらお話しいただきました。何気ない投稿や軽い気持ちでの行動が、誰かを傷つけたり、自分自身が被害に遭ったりする可能性があることを学びました。また、ＡＩによって生成されたフェイク情報などにも触れ、情報を正しく見極め、責任をもってインターネットを利用することの大切さについて考えました。

命の大切さを学ぶ教室

「命の大切さを学ぶ教室」では、高田　香（たかだ　かおる）様から、交通事故で息子さんを亡くされたご遺族としての思いをお話しいただきました。交通事故の悲惨さや命の尊さを多くの人に伝えたいという願いを込め、アサガオの種とともに、その思いを広げる活動を続けていらっしゃいます。生徒たちはお話を通して、自分自身の命はもちろん、家族や友人など、身近な人の命についても改めて考える貴重な機会となりました。





これらの学習を通して、生徒一人ひとりが自分自身を大切にするとともに、周囲の人を思いやり、互いの命を尊重することの大切さを学んでいます。今後も、さまざまな学習や体験を通して、自分や他者を大切にする心を育んでいきます。

（文責：生活指導主任　後藤　弘毅）

後期専門委員会任命式　１０／１３（火）

10 月 13 日（火）後期の専門委員会の任命式がありました。代が替わって２年生が委員長となり、専門委員会を引っ張っていきます。

それぞれの委員長から、「これからこんな風に頑張っていきたい」という所信表明がありました。松江六中をより良くするために、皆さん一人一人の協力が必要です。３年生は一線を退きましたが、今までの経験を活かし、後輩たちにアドバイスをよろしくお願いします。









	会　長	副会長	書　記	庶　務
生徒会本部役員				

	委員長	副委員長	書記
１年学級委員会			
２年学級委員会			
３年学級委員会			
生活委員会			
整美委員会			
保健委員会			
給食委員会			
図書委員会			
放送委員会			

敬称略

学年弁論大会【１・３年　１０／１３（火）、２年　１０／１５（木）】



上記の日程で、学年ごとにクラスの代表生徒による弁論大会が行われました。

１年生だけはリアルタイムで聴くことができたのですが、２・３年生については残念ながら出張と重なったため、後日、録画の映像を全員分見させてもらいました。１年生の弁論大会では保護者の方にもご参観いただけたことに感謝申し上げます。国語係の進行も大変立派で驚きました。

クラスから選ばれた発表だけあって、どの弁論も構成がしっかりとしており、発表も説得力がありまし

た。テーマも多岐にわたっていて、学ぶ姿勢や心の持ちよう・過去の経験による変化など、主に自分自身の内面や生き方に焦点を当てたもの、言葉の影響力や、他者への思いやりなど、人間関係の基本となるコミュニケーションを考えたもの、ネット依存や生成ＡＩ、ジェンダーや福祉など現代社会の歪みや最新技術との付き合い方に注目したもの、ウイルスの二面性や、避けては通れない「死」など、生命の本質や倫理に迫ったもの等、幅広い発表を聴くことができました。

今回の弁論を聴いていて、皆さんの「物事を見る目の鋭さ」と、「自分自身を見つめ直す心の深さ」にとても感心しました。皆さんが選んだテーマの多くは、普段は当たり前のようにそばにあり、つい見過ごしてしまいそうな日常のことです。しかし、そこにしっかりと目を向け、大きくクローズアップし、深く掘り下げて調べることで、新しい発見や気づきがあったことが伝わってきます。

何より素晴らしかったのは、ただ調べるだけでなく、「自分の考え方ひとつで世界の見え方が変わるんだ」という気づきや、「自分が本当に大切にしたいこと」を自分の言葉で堂々と語ってくれた点です。発表を聴いていた人たちにとっても、「自分ならどうするだろう」と身の回りのことや自分自身を振り返る、大きなきっかけや参考になったはずです。

自分が大事にしていることを言葉にして、その価値に気づけたことは、皆さん自身のこれからの大きな自信になったはずです。素晴らしい弁論をありがとうございました。

３年生の最優秀賞の中川　心有さんの「ポジティブに」は、文化祭の舞台発表に続いて、11 月 7 日（土）にタワーホール船堀 5 階小ホールで開催された第 73 回江戸川区立中学校弁論発表会で、松江六中の代表として、堂々と発表してきました。

１年生

最優秀賞	**「想像」**
優秀賞	「人類を傷つけ、救うウイルス」
優秀賞	「男女平等に隠れる影」
優秀賞	「仕方のない死」
優秀賞	「スマホに溶ける私の時間と可能性」
優秀賞	「私を変えた魔法の言葉」



２年生

最優秀賞	**「その一言、あなたは責任を持てますか」**
優秀賞	「「ちくちく言葉」の危険性」
優秀賞	「表と裏」
優秀賞	「勉強する意味」
優秀賞	「ラスト 1 秒まで輝き続けるために」
優秀賞	「食と栄養」



３年生

最優秀賞	**「ポジティブに」**
優秀賞	「努力と学び」
優秀賞	「フェイクニュースを減らすには」
優秀賞	「「認められたい」が生むスマホ依存」
優秀賞	「日本の子供の幸福度」
優秀賞	「言葉は力である」
優秀賞	「AI の活用」



１年校外学習　１０／１５（木）

10 月 15 日（木）、快晴に恵まれ、バス３台で木更津にある「KURKKU FIELDS」に行ってきました。大きな渋滞にもはまることなく、片道１時間半ほどで行けるこの場所は、2019 年に誕生した比較的新しい施設です。サスティナブルファーム＆パーク（体験型複合施設）ということで、約 30 ヘクタール（東京ドーム約６個分）の広大な敷地を所有しています。「KURKKU」はフィンランド語で「きゅうり」のことを言うのだそうです。場内の農場で作られた野菜、酪農場で絞られた水牛のミルク、地域で捕獲されたイノシシ等の野生生物のジビエなどを加工し、提供しています。太陽光発電で電力を起こし、微生物や植物の力で水をろ過するなど、環境に負担をかけない資源を循環させる取り組みを行っています。



午前中は、スタッフから説明を受けた後、班ごとにウォークラリーを行いました。広い敷地の中に様々な店やアート作品があり、18 個の課題が隠れています。その質問にそれぞれの班が協力して答えていきます。見晴らしの良い丘の上から見ていると、場内はほぼ貸し切り状態で、松江六中の生徒たちがあちこちで歓声を上げながら走り回っています。木で作られた長い滑り台や、シーソー、ハイジが乗るような大きなブランコなどもあり、ウォークラリーの合間に楽しんでいる様子も見られました。いくつかの班が時間内に全ての課題に回答できました。

昼はイノシシの肉を使ったビビンバ丼をいただきました。もちろん、マイ箸、マイスプーン持参です。班ごとにレジャーシートを敷いて食べたのですが、お腹が空いていたのか残菜がほとんど出ず、スタッフの方から褒められました。昼食後の自由時間は、午前中あれほど走り回ったにもかかわらず、鬼ごっこや滑り台の往復で再び動き回り、１年生の無尽蔵な体力に驚きました。



午後はクラスごとにヤギや羊への餌やり、養鶏に関する学習、農場での収穫を行いました。スタッフからこの施設の循環システムを学んだり、動物たちがどのように飼育されているか、卵や乳をどのように加工したりしているのかを学びました。収穫体験ではサツマイモを畑の畝から掘り出します。畝を覆っているシートを外すとたくさんの虫が這い出てきてあちこちから悲鳴が聞こえてきました。大小さまざまな芋ができています。大物をねらって皆で頑張って意外と固い土を掘り進めます。中には自分の顔ほどの大きさの芋を掘った生徒もいました。すぐに食べるよりもしばらく置いた方が糖度が増すことを教えていただきました。

朝の集合時には指示されないとなかなか整列ができませんでしたが、施設についてからは時間を意識し、時間通りに動くことができていました。実行委員長の　　さんをはじめ、実行委員の皆さん、お疲れさまでした。















第３０回中央・一之江ふるさとまつり　１０／２５（日）

熱帯低気圧に変わった台風 30 号の名残か、時折小雨が降る中、30 回目のふるさとまつりが開催されました。小学校の鼓笛隊が多数参加するパレードは、今年から一之江駅を出発し、メイン会場の松江五中に到着するルートに変わりました。

松江六中のＰＴＡは昨年に続き、タピオカドリンクとドーナツの販売を行いました。飲食物の販売は天候に左右されます。すっきりと晴れていれば、売り上げももう少し伸びたのではないかと役員の方はおっしゃっていましたが、ほぼ売り切れたとのこと、大変お疲れさまでした。


ＰＴＡの出店

生徒のボランティアはここ数年で最大人数の 14 名が参加してくれました。松江五中の「本部テント」、親水公園沿いの「馬場八幡宮」と、「一之江ももこの郷」の３箇所に分かれて、スポーツチャレンジ、ゲーム遊び、プレイパークのお手伝いをしました。松江六中のボランティアは昨年にも増して、お客さん（子どもたち）への声掛けが積極的で、ゲームや遊びに対しての工夫ができ、自分たちで状況を見て指示をしなくても動いてくれるとどこへ行っても褒めていただきました。私もとても嬉しかったです。朝の９時から夕方までの長丁場でしたが、地域の方とたくさんの交流ができ、多くの方から喜んでいただけて良い体験ができたと思います。

また、松六吹奏楽部は午後１時過ぎから、松江五中の特設ステージで演奏を行いました。大勢のお客さんの前で、文化祭とはまた違ったプログラムで、ＭＣも１年生が中心となって曲を紹介し、新たな吹奏楽部の一面をご覧いただけたと思います。午後になって急に雲行きが怪しくなり、突風が吹く中でしたが、何とか雨に降られる前に予定したプログラムを終え、会場から大きな拍手をいただきました。ボランティアの皆さん、吹奏楽部の皆さん、関わった多くの保護者の皆さん、ありがとうございました。

ボランティア参加メンバー（順不同・敬称略）









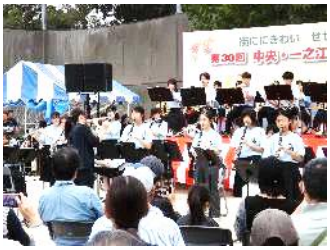


吹奏楽部
風が強くて大変でしたが、よく頑張りました！
















西一之江小・松江六中合唱交流　１０／２７（火）

西一之江小学校との合唱交流を行いました。昨年はインフルエンザの流行があってできなかったため、２年ぶりの開催となります。

３年生の最優秀賞を獲得した１組が、学校を代表して西一之江小学校の体育館で、４～６年生の前で、「手紙～拝啓十五の君へ」と「虹」の２曲を披露してきました。体育館の入り口前の待機場所では「緊張する～」といった声も聞かれましたが、入場して壇上に立つと、先日の合唱コンと同様の堂々とした姿が見えました。学級代表の藤村　俐生くんのあいさつに続いて合唱が始まります。合唱コンクールに向けて長い間大事にしてきた曲です。ハーモニーも強弱もしっかりと響かせることができました。前を向く小学生の表情は見えませんでしたが、歌い終わった後の大きな拍手は、「さすが中学生！」と思ってくれた証なのではないかと思います。お世話になった小学校の先生方にも生徒たちの成長した姿を見せることができて良かったです。

「交流」ということから、今回から小学生の合唱も聴かせていただきました。曲名は「Wish～夢を信じて～」です。６月に齋藤先生が出前授業をした時に、６年生が一生懸命練習していた曲です。小学生の真っ直ぐな歌声に、３年１組の生徒たちも感激して大きな拍手を送っていました。

小学生が自分の将来の姿を思い描いたり、中学生が今まで歩んできた道のりを思い起こしたりして、互いに新たな一歩を踏み出す機会になるこの交流はとてもいいなと改めて思いました。

学級代表あいさつ











小学生の合唱を聴く生徒たち



チャレンジ・ザ・ドリームに向けて準備を進めています（２年生）

２年生は、11 月 24 日（火）から 30 日（月）にかけて、チャレンジ・ザ・ドリーム（職場体験）を行います。今回は 34 箇所の事業所にお世話になることになっています。必ずしも第一希望の体験ができるわけではありませんが、どんな仕事であっても興味・関心を持ち、せっかくの機会にいろいろなことを学んでこようという前向きな気持ちで臨んで欲しいと思っています。

ここ数日（10 月最後の週）は、事業所に事前訪問に行くためのアポイントメントの電話を、代表生徒がしています。今や通信手段はＬＩＮＥが主流となり、固定電話の使い方には不安があるようです。

「受話器を取って、ボタンを押して、あ、早くしないとプーって鳴っちゃうよ」といったやり取りをしていると担当教員から聞きました。自分の名を名乗り、担当の方と替わっていただき、要件をしっかりと言葉で伝え、確認のために復唱し、お礼を言って静かに電話を切ること・・・。今の生徒たちにとってこの一連の流れは、慣れていないこともあって大変なようです。全ては今後生きていくための社会勉強になるに違いありません。

10 月 30 日（金）には社会保険労務士の山本　昌之様を講師にお招きし、「働くことについての講話」をしていただきました。山本様は松江六中の卒業生で、ご自身の松江六中の思い出や当時の学校の様子を語って生徒の心をほぐしつつ、「働くこと」の意義や楽しさ・厳しさを分かり易く生徒たちに伝えてくださいました。働く上で大切なことは「主体性」で、自分でやるべきことを見付け、積極的に動く力が求められています。チャレ・ドリでは、指示されたことをやるだけではなく、常に「次は何をしましょうか？」と自ら動こうとする気持ちを大事にすることのご指導をいただきました。



11／6（金）50周年式典が開催されます

いよいよ 11 月 6 日（金）午前 10 時より、本校体育館で開校５０周年記念式典が行われます。





当日は、江戸川区長をはじめ、区議会議員、町会長、学校評議員、歴代の校長先生やＰＴＡ会長、近隣の小中高校の校長先生、民生児童委員など、本校に深く関わりのある多くのご来賓の方が来校し、皆さんと一緒に松江六中の開校５０周年を祝います。今までの松江六中の歴史を振り返り、関わってきた多くの方へ感謝の気持ちを伝えるとともに、これから先の未来に向けてしっかりとこのバトンを繋ぐという大切な意味を持つ式典です。今の松江六中の生徒の姿を見て、安心してこれからの松江六中を託していただけるように、しっかりとした態度で臨みましょう。特に見られているのは、一番自分の注意が行き届かない「背中」です。この「背中」を見られていることを一人ひとりが意識することが大切です。

第１部は厳粛な式典なので、校長やご来賓の方々のお話を聞く時間が長くなると思いますが、第２部は生徒が主体のアトラクションですので、大いに盛り上がりましょう。

生徒の皆さんは、この式典に向けて多くの準備をしてきました。特に第二部で披露する合唱「群青」については、６月から長い期間練習してきました。先日の縦割りでの合唱練習や、体育館で全員で歌った時の歌声はとても素晴らしかったと担当の先生から聞きました。本番でそれを聴けるのを楽しみにしています。また、開校の頃から松江六中を見守ってくださっている地域の方は、松江六中の校歌をとても大事にしています。また本校を巣立っていった多くの卒業生もまた、校歌を憶えていて、いつでも取り出せるように心の奥に大事にしまっているのだと思います。どうか、皆さんの声が多くの方に届くように、先日の文化祭の舞台発表の冒頭で歌った時のように、体育館中に響かせてください。

新旧生徒会役員、吹奏楽部、文化祭実行委員の皆さんはそれぞれ大事な役割があります。緊張もする

でしょうが、日頃の練習の成果を発揮し、ベストを尽くしてください。自分の思いや考えを相手にしっかりと伝えられるように、「大きな声で、ゆっくり」を意識してください。私も頑張ります。

式の流れは以下のようになります。自分の出番を確認しておきましょう。

第１部（午前１０：００～１０：５０）
式典
1　開会の言葉
2　国歌斉唱
3　区歌斉唱
4　学校長式辞
5　区長挨拶
6　来賓祝辞
7　生徒よろこびの言葉
8　校歌斉唱
9　閉会の言葉



第２部（午前１１：０５～１１：４５）
アトラクション
1　学校紹介
2　吹奏楽部演奏
3　生徒合唱「群青」
4　閉会の言葉



１１月の行事予定

日	曜	行事予定	給食	日	曜	行事予定	給食
11/2	月	全校朝礼 ５０周年記念式典予行⑤⑥	○	21	土		
3	火	文化の日		22	日	勤労感謝の日 ＥＳＡＴ－Ｊ　ＹＥＡＲ３	
4	水	期末考査一週間前	○	23	月		
5	木	式典前日準備	○	24	火	チャレンジ・ザ・ドリーム始（２）	13
6	金	５０周年記念式典	×	25	水		13
7	土			26	木		13
8	日			27	金		13
9	月	全校朝礼　安全指導 林間学校保護者説明会（２）	○	28	土		
10	火	専門委・中央委	○	29	日		
11	水	期末考査始	×	30	月	チャレンジ・ザ・ドリーム終（２）	13
12	木		○	12/1	火	三者面談始（全）	○
13	金	期末考査終	○	2	水	歯科指導（１）	○
14	土			3	木		○
15	日			4	金	区学力調査（１・２）	○
16	月	生徒会校朝礼　実力テスト（２・３）	○	5	土		
17	火		○	6	日		
18	水		○	7	月	全校朝礼	○
19	木		○	8	火	三者面談終（全）	○
20	金	チャレンジ・ザ・ドリーム前日指導（２）	○	9	水		○